

船舶事故調査報告書

平成24年9月27日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 庄司 邦昭
 委員 根本 美奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成23年10月3日 漁場での投網後～4日 05時50分ごろの間）
発生場所	不明（北海道登別市登別漁港南西方沖～北海道白老町ポニアヨロ川河口の間）
事故調査の経過	平成23年10月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第28えびす丸、4.99トン HK3-68867（漁船登録番号）、個人所有 11.42m (Lr) × 2.60m × 0.74m、FRP ディーゼル機関、169.3kW、昭和50年11月5日
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年4月25日 免許証交付日 平成21年4月20日 (平成26年10月4日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、真かれい刺網漁の投網を行う目的で平成23年10月3日16時30分ごろ登別漁港から同漁港南西方沖の漁場に向けて出港し、翌4日05時50分ごろポニアヨロ川河口において、機関が微速力前進にかかった無人の状態 ^{ゆうふつ} で船首部を岩礁に乗り揚 ^{のりあ} げているところを出漁中の僚船により発見された。 船長は、平成23年11月25日北海道苫小牧市勇払 ^{ゆうはら} 所在のマリーナ内で発見され、溺死と検案された。 本船は、日本水難救済会 ^{こじょうはま} 虎杖浜救難所所属船により引き下ろされて登別漁港にえい航された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風力 1～2、視界 良好 海象：波高 約0.5～1m、海水温度 約17℃
その他の事項	本船は、ふだん、夕刻に漁場で投網し、投網した日の夜間に帰港

	<p>し、翌日の早朝に出港して揚網していた。</p> <p>本船が所属する漁業協同組合の担当者によれば、船長は、息子（会社員）１人と同居していたが、同人は１０月３日船長が帰宅しないことに不安を感じていなかった。</p> <p>本船の漁網は、登別漁港南西方沖の漁場に敷設されていた。</p> <p>船長は、青色ジャンパーの上着と同色のジャージのズボンを着用していた。</p> <p>船長は、本事故発生以前に救命胴衣不着用を目撃されていた。</p> <p>船長は、発見された際、救命胴衣を着用していなかった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、溺死した。</p> <p>本船は、真かれい刺網漁の投網を行う目的で３日１６時３０分ごろ登別漁港を出港後、４日０５時５０分ごろポンアヨロ川河口において、機関が微速力前進にかかった無人の状態に船首部を岩礁に乗り揚げているところを発見され、また、本船の刺網が同漁港南西方沖の漁場に敷設されていたことから、３日に同漁場で投網後から４日０５時５０分の間において、船長が落水したものと考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、落水して溺水したものと考えられるが、溺水に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用せず、落水したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が登別漁港南西方沖の漁場で投網後、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命胴衣を着用すること。